

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101659		
法人名	有限会社ゆうしん		
事業所名	グループホームゆうしん水前寺		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺5丁目20-5		
自己評価作成日	平成29年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1Fに認知症カフェを併設し、地域の方やグループホームに入居されているご家族に利用いただいている。地域との懸け橋として、今後も力を入れていきたいと考えている。  
グループホームでは昨年に比べて、入居者の誕生日会はもちろんの事、ボランティアの活用や外出行事に力を入れている。また、行事結果の報告として、4半期ごとにニュースレターという形でご家族に報告している。  
認知症の方が自分らしい生活を送れるように、職員みんなで協力をして運営を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度の外部評価結果をもとに、家族向けニュースレターを創刊し家族への情報発信としたり、業務マニュアルの修正等改善意欲を高くしながらサービス向上に取り組んでいる。また、1階にある認知症カフェが地域との交流促進の一環として、一方で運営推進会議を生かしながらの運営体制が地域との関係性をより一層深めている。平成27年開設という中でも、家族の希望に応え、医療との連携により入居者の最終章への寄り添いは、最期まで見ていきたいとする職員の総意として職員同士の協力関係が表れている。日常生活にもボランティアの訪問や、外出支援等楽しみ事も増えており、今後の展開に大いに期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の啓示を行い、毎朝朝礼時に全員で唱和を行っている。全職員が理念を共有して実践に繋がられるように努力している。	法人の綱領の中で職員のケア姿勢を謳い、基本理念の一つである誠実と笑顔のケアに注視している。毎朝の唱和による意識強化と共にミーティングを通じて実践に繋げるよう努力している。また、1Fにある認知症カフェが地域への啓発として生かされている。	1階にある認知症カフェが有効活用されており、地域との関係性に深まりを見せている。理念についての具体的な話し合いや、次年度に向け振り返る機会をつくられることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	廃品回収時などは入居者を連れて参加する等、少しずつであるが、地域の方との交流も出てきている。地域行事にできる限り参加できるように努力していく必要がある。	町内会に加入し、回覧板の受け渡しや子ども会主催の廃品回収への協力、商店街の夏祭りや、近くにある病院が開催する夏祭り等に参加しながら、地域との関係性を深めている。運営推進会議の中で自治会活動等も発信されており、地域の中での生活拡充に生かされることを期待したい。	地域の中に出て交流を図ろうと意欲的である。1階の認知症カフェを生かした交流促進とともに、健康サロン等も入居者も参加されることで認知症ケア推進の一環とされることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の勉強会や震災支援の健康サロン等に会社、事業所で参加をしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてグループホームの活動報告を行い、地域の方と意見交換を行っている。	定期的開催する運営推進会議は、1階の認知症カフェからの報告、地域行事や予定、地域包括支援センターからの情報発信と、グループホームの現状等の報告のもと意見交換が行われている。委員からの意見も多く、情報リサーチや発信の場として活用されている。家族には参加を呼び掛けてはいるが、参加は難しい状況である。	運営推進会議は定着してきており、ホームが課題とする問題などを提示することで、更に参加委員も意見を出しやすくなるものと思われる。運営推進会議の進め方として検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括職員の方に参加して頂き、ホームの現状を報告している。	行政が行う実地指導や集団指導等への参加や、事故等に行政の意見をもとに対策を講じる等適切なアドバイスを得ている。また、運営推進会議を通じ、地域包括支援センターとの協力関係を築き、包括主催の行事(認知症カフェ)に賛同しホームも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や事業所独自の研修を通じて、身体拘束について勉強を行い、ケアに生かしている。	法人としての研修やホーム内にて事例を通じた話し合いを行っている。センサーマット使用するにあたり、行政の見解を尋ねるとともに、家族には転倒・転落事故対策、予防であり動きを抑制するものではないことを説明し、同意を得たうえでプランに入れている。入居者の帰宅要求に家族と相談し、外出をお願いする等個々の状況を把握している。職員の言葉使いについては、管理者がその都度注意喚起している。	離設事故対策等行政へ報告しアドバイスを得ている。玄関(エレベーター含む)は施錠されているが、見守りの強化と所在確認を徹底されており、時間的な開錠等検討いただきたい。また、家族に入居によるリスクを説明し同意書を交わされることを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待について学び、身体的虐待はもちろんの事、日ごろの職員の行動や言葉による精神的虐待にならないようにしている。 ストレスチェックも会社として行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度等を利用されている方がいない為、活用までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に契約内容を説明し、丁寧に対応するように心掛けている。また、契約書の改定があった場合には事前に連絡し、個別に説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際に、現在の状況を説明し、要望や意見があった場合には職員で情報を共有している。 意見箱を設置。	家族の訪問時に意見や要望等を聞き取りし、要望や意見は申し送りノートにて共有化を図っている。苦情と思える事案は苦情相談簿に残し、全員でカンファレンスを行っている。家族への情報発信を課題として、ニュースレターを創刊し、月間予定等を発信している。行事開催には家族に呼びかけられており、今後も継続した呼びかけに期待したい。	ニュースレター発行が家族との接点、情報の共有化として活用されるものとして、4半期毎に発行したいと意欲的である。更には家族にホーム独自のアンケート調査等も検討いただき、家族の忌憚りの無い意見等をホーム運営に反映いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時での申し送りやスタッフミーティングの中で提案を出し合い、運営に生かしている。 代表や上長の訪問もあり、入居者の様子や職員とのコミュニケーションを図っている。	申し送りや毎月のミーティング時、買い物によるメリット・デメリットの話し合いやワークシートを導入し業務マニュアルの修正に全員であたりケア統一としている。また、ハード面(設備)を充実し効率化を図る等合議により決定することとしている。管理者は日々ケアに入りながら、職員とのコミュニケーションを図り、代表等も訪問されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者がホームを訪れ、職員に声を掛けられる。 人事を通して、職員の職場環境・労働条件等の整備を個別で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より、法人でoff-JT研修を実施し、職員は研修に参加してスキルアップに努めている。 初任者研修や実務者研修を職員に受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水前寺地域の事業所の研修会や親睦会等を通じて、情報交換をしサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や本人が相談に来られた時に、何に困っているのか、不安なことは何かを丁寧に聞き取りをし、安心して入居ができるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や本人が相談に来られた時に、何に困っているのか、不安なことは何かを丁寧に聞き取りをし、安心して入居ができるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族と面会、相談を受けた上で、入居を望んでいるのか、その他の支援を望んでいるのかを丁寧に聞き取りし、見極めを行っている。 必要があれば、他のサービスを提案、繋げられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に家事を行っていく中で、役割意識を持って頂くようにしている。共感できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の様子や、身体状況を報告し、入居者の今を把握して頂くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの病院、なじみの理容室を継続して利用ができるようにしている。 買い物をするための外出支援も行っている。	家族や知人の訪問、かかりつけ医や理容室等家族により継続されている。また、盆・正月の帰省、墓参やお寺参り、商店での買い物支援、七夕短冊作りや端午の節句、カラオケ・編み物等趣味・慣習等も継続して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今年度より入居者同士の交流会を図る為、誕生日会や花見等の外出行事を増やしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時のフォローをはじめ、退去後も相談できるようにご家族に説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を日常会話から引き出すように努力をしている。	入居者目線でのケアの中で希望や思いを引きだし、自分の意見等を発せない方には職員から声掛けを行うことで本人の思いに応えようと努力している。	入居者は意思表示もままならない様子、行きたい場所や食べたい物の希望は出されており、今後も入居者との会話に努め、その中で思いを引き出し、提供していきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を参考にしながら本人や家族の意向を尊重し、安心して生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体面や精神面の観察に努め、スタッフ間で情報を共有し、介護方法など検討に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員から情報を収集し、ケアカンファレンス等を通じて、介護計画書を作成している。	アセスメントにより課題を検討し、3ヵ月毎のモニタリングにより継続の可否を見きわめ、半年毎に見直している。受診結果による話し合いや、日々の記録や申し送り等をプラン作成に生かし、歩かせてほしいとする要望に通院でのリハを利用する等家族の要望や職員の気づきを盛り込んだ具体的なプランが作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に従い、ケアの状況や結果を個別に記録し、情報を共有しながら介護計画書の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを伺い、介護保険以外の訪問や訪問理美容、ボランティアを活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話し合い、要望に沿った対応を行っている。病状の悪化時には、主治医へ連絡を行う、適切な対応が取れるように努めている。 複数の病院受診が必要な場合には、ご家族にも協力を依頼している。	これまでのかかりつけや希望する医療機関を継続して支援しており、往診や家族による受診の他、協力医療機関へはホームで対応している。主治医との連携や訪問看護による健康チェック、日々のバイタルチェックなどにより、入居者の健康を管理し、必要に応じた医療支援に速やかに対応できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、24時間のオンコール体制、週1回の訪問による健康チェックや相談を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、安心して治療ができるように配慮している。入院先には、入居中の様子や入院に至った経緯をまとめ、情報提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針を入居者、ご家族と取り交わしを行い、随時、事前指定書に関しても取り交わしを行っている。	入居時に重度化におけるホームの指針を説明し、高齢や家族が遠方におられ方については事前指定書を交わしている。重度化や終末期支援については、繊細な部分であり、家族の意向や思いを汲み取りながら話を行うこととしている。これまでホームでできるところまで支援し、医療機関へ移られた方が殆どであるが、家族の希望により訪問診療医師の協力により、今年度1例の看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に社内研修でAEDの操作方法や救命救急法を学んでいる。緊急時の連絡方法も周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施している。災害時の緊急連絡網を作成し、活用している。法人として、防災マニュアルの整備を行っている。	年2回避難訓練を実施している。11月の消防署の立ち合いによる訓練では、職員の大きな声での誘導やスピード感があったことが評価され、人がいない部屋の確認を徹底する点で指導を受けている。訓練の様子は一部広報誌でも紹介されている。昨年の熊本地震発生後は、防災・防犯マニュアルを見直し新たな作成が行われている。現在、備蓄についてマニュアルを作成中である。	今後は地域を巻き込んだ訓練の実施や、コンセントの埃など細かな安全チェックへの取り組みに期待したい。また、ホームは住宅街にあり、安全管理については、家族にも小まめに報告を行うことで、安心や信頼に繋がっていただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて虐待防止、プライバシー保護について学び、職員一人一人が意識しながらケアを行っている。社内はもちろんの事、社外では会社で知りえた情報を口外しないように徹底している。	呼称は基本的に名字にさん付けとしているが、家族からの要望で下の名前でも対応している。同性介助については、極力努めているが、勤務体制などの面から異性で行う場合もあり、本人の同意を得て支援している。守秘義務については、入職時や会議の中で周知を図り、写真掲載などの個人情報の使用は、家族の承諾のもと行っている。また、ボランティアについては、本社で説明がなされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事等への参加、不参加の自己決定を促すように声掛けを行っている。希望や要望があった時はできる限り対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の1日のペースを把握し、入居者のペースに合わせてケアを行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や髭剃りを行い、衣類が汚れている時は更衣を行うように身だしなみには配慮している。 月1回の訪問理美容も活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、お手伝いができる入居者には食事作り(野菜の皮むき)をお願いし、一緒に作るようにしている。		今後は味の確認や入居者の思いを共有するために、検食を兼ねて職員が1名でも同じものを摂ることができないか検討されることを期待したい。また、介助エプロンについては、首に負担がないかなどを含め、使用方法を検討いただきたい。家族も食事については関心の一つと思われ、普段の食事メニューを紹介されることを望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合わせた食事形態の提供に努めている。食事の量などは入居者それぞれで調整をしている。 脱水にならないように、水やお茶だけでなく、コーヒーや甘いものなど、できる限り本人の意向に沿ったもの提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた援助方法で毎食後の口腔ケアを行っている。 訪問歯科の無料検診等も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や表情、体動で排泄の声掛けを行い、誘導をしている。 夜間帯はオムツを使用しても、日中はリハビリパンツ、トイレを使用するように援助に努めている。	入居時に家族からの聞き取りなどにより排泄パターンを把握し、定時誘導や見守りを行っている。日中は布パンツの方もおられるが、殆どの方がリハビリパンツを使用され、トイレでの排泄を支援している。夜間はトイレでの排泄と、安全面や安眠を重視しオムツの使用もあり、交換時は特にプライバシーに配慮している。	排泄支援で使用した手袋の始末については、衛生面から蓋つきのバケツを使用される方が望ましいと思われ、検討いただきたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、排便が出ていない方には水分を多めに取ってもらい、散歩など体を動かすように促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の拒否や体調に応じて、無理強いしないようにしている。季節ごとに菖蒲やゆず、入浴剤を使用して、入浴を楽しんでもらうように努めている。 安全面を配慮し、リフト浴を使用している。	職員は、バイタルチェックにより入浴可否を見極め、週2回を基本として午後を中心に支援し、好みの湯温で湯船にゆっくり入ってもらうよう努めている。入居者中には習慣であるシャワー浴で対応している。また、3階にリフト浴が設置しており、身体状況に応じて使用している。菖蒲や柚子湯、入浴剤の使用等や、シャンプーなど好みや使い慣れたものがあれば家族が準備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンやその時の状況に応じ、くつろいで過ごせるように支援している。 日中の活動量をできる限り増やし、夜間に安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴、薬について職員それぞれがしっかり把握し、誤薬がないように職員間で確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の体調に合わせ、家事手伝いの声掛けや趣味活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や食材の買い出しを入居者と一緒に行っている。外出支援として花見や初詣等を今年度より取り組んでいる。ご家族にも協力してもらい、外出をお願いしている。	近隣の散歩や食材購入など個々の状況に応じて支援している。今年度は入居者の負担も考慮し駐車場の整備された神社への初詣や、二日に分かれての桜の花見、サーカス観覧などに出かけている。また、花見当日は、おやつに桜餅を提供し余韻を味わっている。	家族にも行事や外出イベントと一緒に参加してもらえるような働きかけを継続し、入居者の笑顔に繋がっていただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望に応じて本人に管理してもらっている方もいる。基本的に職員でお金は管理し、買い物や外出時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なじみの方から贈り物等が届いた際は、一緒に電話をかけ、交流関係が円滑に継続できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光をできる限り取り入れ、空気の入替から季節を感じてもらっている。入居者の方が作ったカレンダーを貼り、居心地良く過ごせるように工夫している。	リビングホールはソファやテーブルを配置し、食事やテレビ視聴など日中の殆どを過ごす空間であり、空気清浄機や加湿器を配置しながら適切な温湿度管理に努めている。対面式キッチンからは調理の音や匂いが伝わり、我が家にいるような空間である。リビングの壁には入居者と一緒で作成したカレンダーを毎月掲示しており、職員は楽しんで制作してもらえるアイデアを出しながら取り組んでいる。	リビングからの眺めは、階上で暮らす入居者にとって何より心和むものと思われる。遮光などへ配慮しながらも、可能な限りオープンな空間を望みたい。また、職員も大切な環境であり、理念に掲げた誠実と笑顔を心にとめ、今後も入居者支援に努めていかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファ等、好きな場所にてテレビを見たり、職員と一緒におりがみや歌などを思い思いに過ごしてもらえるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、使い慣れている家具等を持ち込んでもらっている。	居室への持ち込み品については、自身で使っていた家具や日用品(食器・湯呑など)の例を挙げて伝えている。テレビや椅子などを持ち込まれるところもあるが、準備する側も現状が分からず、新たに揃えられる方も多いようである。掃除は時間を決めて毎日行い、入居者が気持ちよく過ごせるようにしている。昨年の震災を受け、居室の物品の落下にも気を配っており、今後はタンスの固定も検討している。	家族の中には面会時に思い出の写真を掲示されている。今後も本人が安心して過ごせるよう、引き続き家族の協力を得ながら、居室環境の整備を進めていきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日掃除を行い、入居者が清潔な環境で生活が送れるように努めている。危険認知の低下がみられる入居者が多い為、動線上に障害物が無いように環境整備に努めている。		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の啓示を行い、毎朝朝礼時に全員で唱和を行っている。全職員が理念を共有して実践に繋がれるように努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	廃品回収時などは入居者を連れて参加する等、少しずつであるが、地域の方との交流も出てきている。地域行事にできる限り参加できるように努力していく必要がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の勉強会や震災支援の健康サロン等に会社、事業所で参加をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてグループホームの活動報告を行い、地域の方と意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括職員の方に参加して頂き、ホームの現状を報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や事業所独自の研修を通じて、身体拘束について勉強を行い、ケアに生かしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待について学び、身体的虐待はもちろんの事、日ごろの職員の行動や言葉による精神的虐待にならないようにしている。 ストレスチェックも会社として行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度等を利用されている方がいない為、活用までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に契約内容を説明し、丁寧に対応するように心掛けている。また、契約書の改定があった場合には事前に連絡し、個別に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際に、現在の状況を説明し、要望や意見があった場合には職員で情報を共有している。 意見箱を設置。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時での申し送りやスタッフミーティングの中で提案を出し合い、運営に生かしている。 代表や上長の訪問もあり、入居者の様子や職員とのコミュニケーションを図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者がホームを訪れ、職員に声を掛けられる。 人事を通して、職員の職場環境・労働条件等の整備を個別で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より、法人でoff-JT研修を実施し、職員は研修に参加してスキルアップに努めている。 初任者研修や実務者研修を職員に受けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水前寺地域の事業所の研修会や親睦会等を通じて、情報交換をしサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や本人が相談に来られた時に、何に困っているのか、不安なことは何かを丁寧に聞き取りをし、安心して入居ができるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や本人が相談に来られた時に、何に困っているのか、不安なことは何かを丁寧に聞き取りをし、安心して入居ができるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族と面会、相談を受けた上で、入居を望んでいるのか、その他の支援を望んでいるのかを丁寧に聞き取りし、見極めを行っている。 必要があれば、他のサービスを提案、繋げられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に家事を行っていく中で、役割意識を持って頂くようにしている。共感できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の様子や、身体状況を報告し、入居者の今を把握して頂くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの病院、なじみの理容室を継続して利用ができるようにしている。 買い物をするための外出支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今年度より入居者同士の交流会を図る為、誕生日会や花見等の外出行事を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時のフォローをはじめ、退去後も相談できるようご家族に説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を日常会話から引き出すように努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を参考にしながら本人や家族の意向を尊重し、安心して生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体面や精神面の観察に努め、スタッフ間で情報を共有し、介護方法など検討に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員から情報を収集し、ケアカンファレンス等を通じて、介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に従い、ケアの状況や結果を個別に記録し、情報を共有しながら介護計画書の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを伺い、介護保険以外の訪問や訪問理美容、ボランティアを活用している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話し合い、要望に沿った対応を行っている。病状の悪化時には、主治医へ連絡を行いつつ、適切な対応が取れるように努めている。 複数の病院受診が必要な場合には、ご家族にも協力を依頼している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、24時間のオンコール体制、週1回の訪問による健康チェックや相談を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、安心して治療ができるように配慮している。入院先には、入居中の様子や入院に至った経緯をまとめ、情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針を入居者、ご家族と取り交わしを行い。随時、事前指定書に関しても取り交わしを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に社内研修でAEDの操作方法や救命救急法を学んでいる。緊急時の連絡方法も周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施している。 災害時の緊急連絡網を作成し、活用している。 法人として、防災マニュアルの整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて虐待防止、プライバシー保護について学び、職員一人一人が意識しながらケアを行っている。社内はもちろんの事、社外では会社で知りえた情報を口外しないように徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事等への参加、不参加の自己決定を促すように声掛けを行っている。希望や要望があった時はできる限り対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の1日のペースを把握し、入居者のペースに合わせてケアを行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や髭剃りを行い、衣類が汚れている時は更衣を行うように身だしなみには配慮している。 月1回の訪問理美容も活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、お手伝いができる入居者には食事作り(野菜の皮むき)をお願いし、一緒に作るようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合わせた食事形態の提供に努めている。食事の量などは入居者それぞれで調整をしている。 脱水にならないように、水やお茶だけでなく、コーヒーや甘いものなど、できる限り本人の意向に沿ったもの提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた援助方法で毎食後の口腔ケアを行っている。 訪問歯科の無料検診等も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や表情、体動で排泄の声掛けを行い、誘導をしている。 夜間帯はオムツを使用しても、日中はリハビリパンツ、トイレを使用するように援助に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、排便が出ていない方には水分を多めに取ってもらい、散歩など体を動かすように促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の拒否や体調に応じて、無理強いしないようにしている。季節ごとに菖蒲やゆず、入浴剤を使用して、入浴を楽しんでもらうように努めている。 安全面を配慮し、リフト浴を使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンやその時の状況に応じ、くつろいで過ごせるように支援している。 日中の活動量をできる限り増やし、夜間に安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴、薬について職員それぞれがしっかり把握し、誤薬がないように職員間で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の体調に合わせ、家事手伝いの声掛けや趣味活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や食材の買い出しを入居者と一緒に行っている。外出支援として花見や初詣等を今年度より取り組んでいる。 ご家族にも協力してもらい、外出をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望に応じて本人に管理してもらっている方もいる。基本的に職員でお金は管理し、買い物や外出時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なじみの方から贈り物等が届いた際は、一緒に電話をかけ、交流関係が円滑に継続できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光をできる限り取り入れ、空気の入替から季節を感じてもらっている。 入居者の方が作ったカレンダーを貼り、居心地良く過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファー等、好きな場所にてテレビを見たり、職員と一緒におりがみや歌などを思い思いに過ごしてもらえるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、使い慣れている家具等を持ち込んでもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日掃除を行い、入居者が清潔な環境で生活が送れるように努めている。危険認知の低下がみられる入居者が多い為、動線上に障害物が無いように環境整備に努めている。		